

電気通信大学 平成19年度シラバス

授業科目名	基礎プログラミングおよび演習		
英文授業科目名	Fundamental Programming		
開講年度	2007年度	開講年次	1年次
開講学期	後学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	専門科目-専門基礎科目-選択科目		
開講学科・専攻	知能機械工学科		
担当教官名	松村 隆		
居室	東4 - 423		

公開E-Mail	授業関連Webページ
matsu@mce.uec.ac.jp	

【主題および達成目標】
<p>コンピュータは電気を入れただけでは、当然ながら何も仕事をしてくれません。コンピュータに対して「どんな仕事をさせるか」を決め、「どのような作業をするか」を指示しなければなりません。このような作業指示の集まりを「プログラム」と呼んでいます。従って、一般に市販されている「Office」関係や「ブラウザ」なども「プログラム」の一種であり、近年の多くの製品はプログラム言語の一つである「C言語」によって作成されています。また、皆さんが所属している知能機械工学科の研究室でも、機械制御や数値解析のために「プログラム」は不可欠です。この講義&演習では、プログラミング言語の一つであるC言語を使ってプログラムを作るのに必要な基本的な命令、プログラミングスタイル、プログラム構造などについて学ぶことを目標とします。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
コンピュータリテラシー

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
特になし

【教科書等】
<p>教科書の指定はありませんが、参考書として自分にあった「C言語」の解説書が何か一冊手元にあるとよいでしょう。</p> <p>例えば、</p> <p style="padding-left: 40px;">改訂第4版 ANSIC対応 はじめてのC</p>

棕田 實 著，技術評論社

などです。

【授業内容とその進め方】

本講義 & 演習は情報処理センターの演習室で実施します。授業時間の前半は、前回課題の講評と次の課題に関連する内容の講義を行い、後半は各自が課題に取り組みます。

内容は以下の通りです。

第 1 回 C 言語の特徴，プログラム作成・コンパイル・実行

第 2 回 データ型 (printf)

第 3 回 演算子 (1) (scanf)

第 4 回 関係演算子，制御文 (if 文，switch 文)

第 5 回 制御文 (for 文，while 文，do-while 文)

第 6 回 プログラミングスタイル，演算子 (2)

第 7 回 配列

第 8 回 文字列

第 9 回 ファイル操作 (1)

第 10 回 ファイル操作 (2)

第 11 回 関数 (1)

第 12 回 関数 (2)

第 13 回 構造体

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

(a) 評価方法：

授業への出席，課題の提出，期末試験の結果を総合評価する。

(b) 評価基準：

以下の到達レベルをもって最低達成基準とする。

(1) 基本的に全ての授業に出席していること。ただし、ケガ、病気など止む得ない理由で欠席した場合には、出席扱いにするので申し出ること。

(2) 全ての課題が受理されていること。

(3) C 言語を使って初歩的なプログラムの作成ができること。

【オフィスアワー：授業相談】

適宜相談に応じるが、E-mailなどで事前にアポイントを取ること。

【学生へのメッセージ】

機械制御や数値計算にプログラムは不可欠です。この講義 & 演習でプログラミングの基礎を学んでください。

電気通信大学 平成19年度シラバス

【その他】